

●特集 / ANEX2006 から発信するニッポンの不織布

「産官学の連携」テーマにパネルディスカッションも

— 開催規模や併催コンファレンスなどの詳細を発表 —

開幕が2ヵ月後に迫ったANEX2006（アジア国際不織布産業総合展示会・会議）の詳細が明らかになった。主催団体であるANFA（アジア不織布協会）と主催事務局のANNA（日本不織布協会）は2月28日、都内で記者発表会を開き、開催規模や併催コンファレンスの内容について発表した。

来場者にやさしい展示会を

記者発表会で初めに挨拶に立った岩熊昭三ANFA名誉会長は、「不織布生産量では中国に倍以上の差をつけられたが、日本の不織布は質的には一方のリーダーである。6年ぶりに日本で開催されるANEXを、世界の3大不織布展にふさわしい、来場者の期待に応えられる感動的な展示会にしたい」と述べた。

続いて金井宏彰ANNA会長・ANFA副会長（金井重要工業㈱代表取締役副社長）が、初めに05年の日本の不織布生産量が、新しい製法や商品開発が奏功した結果、2000年に記録した過去最高の31万4,123tに迫る31万3,941tを達成したことに触れ、「このような良い状況で開催されるANEX06をぜひ成功に導きたい」と述べた。

さらに、ANEX06を昨今よく見られる形骸化した見本市にしないために、運営サイドが行ってきた今日に至るまでの準備経緯を説明。ANEX06から新しい情報を発信するために、以下の2つの新しい試みを採用したと述べた。

そのひとつが、会場を見学しやすくするいくつかの工夫をこらしたことで、来場者が目的の出展ブースや製品を探しやすいように受付近くに

検索用パソコン5台を設置した「ANEX SALON」を設営。商談や会員同士の交流の場として利用できるスペースとしても開放する。

また出展社の展示内容を手軽に検索できるようタッチパネルを会場各所に10台配置する。さらにコンファレンス（会議）プログラムを大画面モニターを用いて会場に流すなど、展示会場とコンファレンス会場との連携も図る。

そしてもうひとつが、金井会長が就任以来主張してきた「産官学の連携」を進めるために、パネリスト7名の参加によるパネルディスカッションをコンファレンスの目玉として企画したことである。

金井会長はこのパネルディスカッション開催の目的について、「不織布は“産”主導で進んできた業界で

ANEXとは？

ANEX（ASIA NONWOVENS EXHIBITION and CONFERENCE）とは、米国不織布協会（INDA）が主催するIDEA、欧州不織布協会（EDANA）が主催するINDEXと並ぶ世界3大不織布展の一つとして、世界が注目するアジア最大の不織布産業総合展示会である。

これら3つの展示会は欧米亜3団体（INDA-EDANA-ANFA）間の相互協力契約に基づき、アジア（03年）、米国（04年）、欧州（05年）の順で開催されている。アジアでは00年5月に大阪、03年12月に上海で開催され、06年5月の東京開催は第3回めとなる。



記者発表会の出席者。左から、岩熊昭三ANFA名誉会長、金井宏彰ANNA会長・ANFA副会長、矢井田修ANNA技術委員会委員長、吉村輝夫ANFA/ANNA事務局長、井上良弘ANNA代表幹事

あり、質量とも成熟期に入った日本の不織布産業がもう一度原点に帰り、産官学の連携をもちながら新しい切口、新しい突破口を見つけたいという思いが根本にある」と述べている。

そして最後に“アジアから発信、次世代の不織布テクノロジー”をテーマに掲げるANEX06の開催に向けて、「世界のなかのアジアの位置づけと、アジアのなかの日本の位置づけが発信できる素晴らしい展示会にしたい」と締め括った。

00年の大阪を上回る開催規模

続いて、吉村輝夫ANFA/ANNA事務局長が、現時点のANEX06の開催規模について説明を行った。

それによるとANEX06には現在、460小間（4,140㎡）の出展申込みがあり、6年前の大阪開催の3,716㎡より約11%上回っている。最終的に出展スペースは大阪より15%ほど増え

同展示会は、欧米不織布団体からの協力はもとより、主催するアジア不織布協会（ANFA）を中心に、アジア各地域（日本、中国、韓国、台湾）の不織布団体の積極参画のもとで開催されており出展社数、展示内容においても回を追って充実してきている。

ANEX2006には現在、世界の20を超す国・地域から参加が見込まれ、全体の約6割が海外からの出展で占められるなど、世界の3大不織布にふさわしい内容である。さらにヨーロッパはじめ中国、韓国、台湾から大規模なバピリオン参加も決定しており、海外からの注目度も高い。

ANEX2006 (アジア国際不織布産業総合展示会・会議) 開催概要	
名称	ANEX2006 (アジア国際不織布産業総合展示会・会議)
テーマ	アジアから発信, 次世代の不織布テクノロジー
H P	http://www.anex.info
会期	2006年5月24日(水)～26日(金) 10:00～17:00
会場	東京ビッグサイト 西1・2ホール
主催	ANFA/ アジア不織布協会
主催事務局	ANNA/ 日本不織布協会
運営事務局	日本イージェイケイ(株)
後援	INDA (米国不織布工業会) EDANA (欧州不織布工業会)
展示規模	展示小間数 約460小間 出展社数 約200社 参加国数 20ヵ国以上
併催行事	ANEX2006産官学パネルディスカッション(会議棟レセプションホール) ANEX2006基調講演(会議棟レセプションホール) ANEX2006コンファレンス(会議棟6F) 全24セッション(全同時通訳付き:和⇄英) <テーマ> ・変化する不織布(原料および加工) ・進化する製法(製造法の工夫) ・注目される用途(フィルター・自動車内装材) ・広がる用途と特異な繊維 出展社プレゼンテーション(展示会場内特設会場)



ANEX2006のポスター

る見込みだが、03年の上海開催の5,739 m²を超えるのは難しい情勢という。

また、出展社は現在200社(会場図面と出展社一覧はP.8～9参照)だが、これに台湾や韓国、EDANA(欧州不織布協会)などのパビリオンや共同出展による増加が見込まれるため、上海の253社に近い数字まで行くのではないかと予想している。

一方、国別による出展規模では、日本企業が1,791 m²(全体の43%)で、大阪の同34%を上回っている。また日本以外のアジアが同28%、ドイツを中心とするヨーロッパが同25%の規模となり、全体としてはアジア70%、ヨーロッパ25%、その他5%という内訳である。

来場者は併催される「NEW 環境展」などの相乗効果も手伝って、大阪の1万8,000人を上回る2万人前後を予想している。海外からの来場者も多く訪れると期待されており、中国からはすでに80人規模の団体が訪問を表明しているという。

展示会への入場料は1人3,000円だ

が、インターネット上の下記サイトから事前登録すれば無料になる(<http://www.anex.info/>)。

最新の不織布技術を発信

次いで、矢井田修 ANNA 技術委員会委員長(京都女子大学家政学部教授・学生部長)が、同時開催されるコンファレンスの概要について説明を行った(P.10参照)。

5月24日午後には予定されている「産官学パネルディスカッション」では、「産官学連携ニーズと今後の方向性」(案)をテーマに、産官学それぞれを代表する2名に金井会長が加わった合計7名のパネリストの参加により、産官学研究のあり方や産官学連携の問題点、産官学連携の今後の課題などについて、矢井田委員長の司会進行により討議される。

基調講演には、小池百合子環境大臣と高原慶一朗ユニ・チャーム(株)会長の講演が予定されている。講演内容はまだ公表されていないが、不織布とも関連の深い環境関連の講演と、ANNA会員でもあるユニ・チャー

ム創業者の講演は人気を集めそうだ。

24のテーマで開催されるセミナーは、5月25・26日の2日間にわたり、2部屋に分かれて開催され、うち外国からの発表は7件である。

セミナー内容を大きく分類すると、不織布の製造技術関連が14件、用途開発関連が10件となる。不織布の製造技術関連をさらに詳しく分類すると、不織布用繊維の開発が5件、不織布製造技術が6件、不織布の仕上加工技術が3件となる。

一方、用途開発関連では、不織布が多く用いられているフィルターが3件取り上げられているほか、ジオシンセティックスや自動車内装材、カーペット、化粧品用不織布、ペット用品用不織布、電池関連、代替分野など不織布が多用される分野がテーマとなっている。

セミナーには300人の参加を予定しており、参加費は、「3日通し券」がANNA会員25,000円・非会員30,000円、「1日券」が同10,000円・同12,000円の予定。

矢井田委員長は最後に、「セミナー内容は、技術委員会を何度も開催して内容を詰め、最近の不織布に関する目新しい話題を多く盛り込んだ」と述べ、多数の参加を呼びかけた。